

セルクル・きほく

～紀北支援だより～



和歌山県立紀北支援学校
教育支援部
No.6 H.30年11月

※セルクルとはフランス語で「輪」を意味します。学校や地域とのつながりが大きな輪となり連携していくようにという願いをこめています

冰山モデルの視点と支援

「発達障害の子どもをどう捉えるか？」ということは、子どもへの理解や支援についてとても大切なことです。発達障害の子どもを捉える「冰山モデル」という考え方があります。目に見えている子どもの行動のみに着目するのではなく、その背景要因を捉える視点が重要です。

そうとしか表現できない
そうしたら楽しかった

怠けているように見える
悪ふざけのように見える
自分勝手な行動
感情のコントロールが困難
パニック 等

周囲の状況が把握できていない
学習内容や学習の手順がわからない
自分の伝えたいことがうまく表現できない
家庭や地域生活がうまくいっていない
自尊感情が低下している 等

特性や
環境

- ◆ 氷山は海面上の目に見える部分よりも、海面下の部分の方がはるかに大きいものです。目に見えている部分が子どもの行動とすると、目に見えない部分にはその子を取り巻く環境やその子のもつ特性等の、いわゆる背景要因があります。ここに着目する視点が重要です。
- ◆ 目に見える行動への対応は「事後対応」になります。何かの問題や課題が起こってしまうと、そのことに対する指導は必要です。しかし、事後対応ばかりでは、原因にアプローチしていないために根本的な解決にはならず、また本人にとっては失敗体験の蓄積になります。
- ◆ 行動上の問題の背景要因に着目し、環境調整や特性に応じた支援を行うことはいわゆる「事前（予防的）対応」になります。予防的な観点での支援が行動調整には重要です。
- ◆ 発達障害の子どもを捉える時は、予防的な観点からの支援と課題が生じた時の事後対応の観点、両方の視点で捉えて支援していくことが大切です。

発達障害の特性への理解と教育的対応③ ～表出コミュニケーションの困難さ～

<どんなこと？>

- * 自分からコミュニケーションをとろうとすることが難しい
- * 自分の気持ちを伝えることが困難
- * 独特な言葉選びやイントネーションが出てしまう

<どんな姿？>

- * 自分の状況を伝えることが難しく、説明できない
- * 状況や場面が変わると表現できなくなる
- * 難しい言い回しや、辞書で引いたような言葉を使う
- * 一方的に自分の言いたいことを話す
- * 気持ちの理解が難しく、場にそぐわない言動になる

<教育的対応>

- * 一度にたくさん質問したり、答えを求めたりしない
- * わかりやすい選択肢を用意する
- * 絵や図等を見せながら提示したりやりとりする
- * 話の内容を書きとめる
- * ソーシャルスキル・トレーニングで適切な言動を学ぶ

自立活動の取組・教材紹介

自立活動は「実態把握」から始まります
活動・教材あいき、ではないことに留意することが大切です！

教材名	どんな気持ちクイズ
自立活動の区分	人間関係の形成（2）他者の意図や感情の理解に関すること （3）自己の理解と行動の調整に関すること コミュニケーション（3）言語の形成と活用に関すること
ねらい	・自己の感情についての理解が不十分なため、不快な感情の表出が行動化してしまう児童について、状況に応じた感情のラベル付けをして、感情を言語化できるようにする。 ・他者にも感情があることを知り、同じこともあれば違うこともあるということを理解する。
ポイント	* 前段階で様々な感情表現について学習したことをベースにした。 * 状況によって感情が違うことを知り、イラストでマッチングしながら視覚的に確認できる。 * 同じ課題をもつ児童でのペア学習によって、一つの状況に一つの感情ではなく、様々な感情が生まれることを知る。

* 相手の感情を受け入れる経験を積む。



<ご相談は…>

紀北支援学校 教育支援部 TEL 073-479-1356

相談メール

kihoku-shien@wakayama-c.ed.jp

